



病児保育協議会

news

一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ <http://www.byoujihoiiku.net/>

第91号

2018年(平成30年)1月1日

〔発行人〕 会長 大川 洋二
(大川こども&内科クリニック)〔発行〕一般社団法人 全国病児保育協議会事務局
〒160-8306
東京都新宿区西新宿5-25-11-2F 株日本小児医事出版社内
FAX.03-5388-5193

2018年新春の祝賀

一般社団法人 全国病児保育協議会 会長 大川 洋二
大川こども内科クリニック OCFC 病児保育室うさぎのママ



新年明けましておめでとうございます。今年は戌年です。戌年生まれの人は頑固で、一旦心に決めれば最後までやり通す方が多いようです。信頼を得て、やり通す硬い意志と努力は協議会の発展に必要です。今年は戌年の方の粘り強さに倣いましょう。

病児保育の基本的な概念は、就労支援から子ども支援に、子育て支援から子育て讃美に代わってきました。その結果、子どもは早く健康を取り戻し、持つて生まれた才能を損なうことなく開花させ、発揮することができるのです。保護者は病児である我が子を過度に心配して、辛い思いをすることから解放され、病気から回復すれば、更に強い子どもとなることを理解し、子育ての楽しさを知ることができます。そして健康な時に計画的に有給休暇を取って子どもとの楽しいひと時を過ごすことにより親子の愛着が一層深まることとなります。企業は就労者が計画的に休暇を取ることから、事前に人員配置の予測ができる、適切な対応をとることになります。病児、保護者及び企業の3者がともに恩恵を受けることができ、少子化社会を救うゴールデンシステムといえます。

このゴールデンシステムを維持することは残念ながら容易ではありません。少子化対策として、数々の改善策を内閣府、厚労省は採り始めています。保育士に対する給与加算制度、経験に応じた給与改善策、住居手当の増額、保育所新設に関する大幅な補助金の支給等です。ところがこの制度は認可保育所に対して、あるいは勤務している保育士だけが対象であり、病児保育に勤務している保育士は対象ではありません。この矛盾に関しては病児保育在り方委員会にても検討され、厚労省にも再三要望書の提出等で申し入れを行っています。また子ども子育て会議にても改善を申し入れているところです。病児保育に従事する保育士には従来の保育士に必要な知識、経験に加え、小児の病態や疾病に対する理解や経験も要求されているわけです。これに対する特別の待遇改善策も必要です。この問題点は厚労省子ども家庭局も理解されており、また病児保育施

設の7割が赤字経営であり、その半数が300万円程度の赤字施設です。この赤字幅は現在行われている病児保育施設に対する改善分を分け隔てなく支給されれば解消される見込みとなります。

病児保育士に対する待遇改善策、病児保育施設に対する基本的補助金の増額に関しては、内閣府、厚労省ともに改善する姿勢を示してくれています。残念ながら昨年10月の総選挙により国会での議決は見送られましたが、来年度の予算には盛り込まれることを強く期待しております。それに伴いおそらく来年度もまた病児保育実施要項の一部改正は行われることでしょう。

本協議会では病児保育の健全運営、病児保育士、看護師の待遇改善を目指すことを大きな柱にしておりますが、病児保育の信頼性、安心、安全性をさらに充実させることも本来からある大きな使命です。そのため病児保育研究大会をはじめとして各種研修会を企画整備し、多くの会員にご利用いただくよう努めています。また病児保育に関する調査・研究も怠ってはなりません。3年前から多施設共同研究として行われていたインフルエンザA型B型同室に関する研究は昨年終了し、論文化がすすめられています。今年度からは病児保育での室内感染の発症を検証する多施設共同研究も計画されています。また愛着形成に関する各種レポートの論文化、あるいは疫学的研究もその緒についております。論文化によるエビデンスの集積がなされるかどうかが病児保育の永劫的な学問、制度として成り立つ判断の要となります。今年の戌年に因み、強固な意思のもと、粘り強く皆様と進んでいきたいと思います。会員の皆様においては、各自が病児保育に何ができるのか、どのように貢献するのかを考え、行動する年してください。

皆様にとって充実した1年間となることを期待いたします。

病児保育協議会～これから役割～

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長 **杉野 茂人**
杉野クリニック みるく病児保育センター



副会長を拝命し、何も出来ないまま、あつという間に1年が経ってしまいました。この1年間で、常任理事会、理事会、各種委員会の会議をはじめ、全国大会や病児保育の研修会などに出席・参加させていただきました。みなさまが「病児保育」に対して本当に熱く取り組んでおられるのに、驚きを隠せなかつたというのが正直な感想です。

協議会設立は、大阪の保坂智子先生が「働くお母さんと、病気の子どもたちのために」また、病児保育に従事する職員の為の研修の場と、情報交換の場を立ち上げられたことを、第27回全国病児保育研究大会おおさかに参加して、知りました。現在の協議会は、設立当初の目的を、ほぼ達成しようとしていますが、私たちのように地方にいると、様々な報道で取り上げられる「子育て支援の充実」という点では、まだまだ実感できていません。また施設職員

に対する待遇改善なども、今の運営状況では非常に厳しいのが現実ではないでしょうか。調査研究インシデント委員会の、調査結果を見ても、ほぼ40%の施設が赤字で運営しているのがわかります。この数字は、大都市も地方の施設も含めてのものであり、利用者の多い少ないに関係なく厳しい状況であることが読み取れます。各施設の運営は市町村の補助事業であり、自治体によって補助金も違うようです。

病児保育は、セーフティーネットです。大都市も地方の小さな町も、子どもたちのために、安定した経営ができるよう、行政に対して声を上げ続けなければなりません。そのためには、調査研究の正確な情報を加盟施設に発信し、それらの情報を元に国に働きかけていくことが求められていると考えます。

新年のご挨拶

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長 **佐藤 里美**
さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ



急速な少子高齢化に向かう中、子育てそのものを社会全体で支援することが必要と呼ばれています。さらに待機児童解消のために保育所・園の整備が進むほど、病児保育の必要性が高まってきています。内閣府資料によると病児保育施設数は平成26年度1800施設から27年度では2200施設に増えています。当施設の開設時は全国でも400ほどの施設数で、開設準備のための情報も多くありませんでした。間取りや設備などの他、疾病ごとの部屋割りや職員の配置、物品の消毒や保育について近隣の病児保育室で学ばせていただきました。現在病児保育協議会では病児保育マニュアルのほか、感染症ガイドライン、基礎研修テキスト、事故防止ガイドライン、機関誌病児保育研究などが発行されています。いつも子どもたちには最善の保育環境を提供したい、安全で安心感を与える病児保育室でありますようにと願い、折に触れてはテキストを開き毎日の業務の評価や見直

しに役立てています。是非皆様にもご活用いただきたいと思います。なおこれらテキストは各委員会のご尽力により見直しや検討が繰り返されていて、昨年は感染症ガイドラインが改訂されました。今年は基礎研修テキストの改訂が予定されていて、7月の全国研究大会時の発行に向けて準備が進められています。

昨年も新規開設に向けて県内の施設長やスタッフの方々が見学や研修に来られました。各種テキストのご案内とともに、マニュアルには載っていないノウハウや経験を直接伝えていくことも大切と感じ、現場での工夫や苦労話もお話ししています。そのような場を通して情報提供や意見交換など行えることも病児保育協議会の良いところです。病児保育に従事する多くの皆さんに、近隣から支部へ、そして全国へ横の繋がりを持ち、協議会の輪を広げていけることを望みます。

「子育て支援」から「子育ての支援」へ

一般社団法人 全国病児保育協議会 副会長 高橋 広美
砂原保育園 病後児保育室「とまと」



保育所保育指針の改定によって、親の不安や悩みに寄り添う支援、子育ての意欲や自信が膨らんでいくように、子どもの成長をともに喜ぶ気持ちに共感し合う支援について一層の工夫が求められるようになりました。保育所では、保護者に保育中の様子をタイムリーに伝えるさまざまな工夫をしています。特に写真を用いた掲示やお便りは保護者にも好評です。職員間においても、写真を通して活動や子どもの育ちを互いに確認することがしやすくなりました。また、育児のフォローや、離乳食レシピや食べさせ方、看護師による保健の話など、保育所の持つ専門性を生かしながら保護者のニーズに応える活動も親に対する大切な支援です。

以前、これから病児保育室で勤務を始めるという新

卒の保育者を一年間預かつたことがあります。その時、『保育園っていいですね、またあしたねと言ってさらができるから。病児保育室ではまたあしたは体調がすぐれないことを意味します。ジレンマです』立場が違うと、言葉の持つ意味合いが変わります。

病児・病後児保育室は保育所のような多彩な支援はできないとしても、働く保護者にとって一番心強い支援です。一度きりの出会いで終わるときも多くありますが、たとえ一日限りの出会いで『またあした』はなくても、心も体も元気になって帰っていく姿を見ながら、病児・病後児保育の専門性を感じ、子育て支援は子育ての支援であることを改めて感じるのです。

各種委員会の抱負

感染症対策委員会

委員長 佐藤 勇

よいこの小児科さとう 病児保育室よいこのもり



感染症対策は、病児保育を実施する上での要であることは論を俟ちません。毎年の研究大会で、感染症セミナーに多くの会員の方が参加されることからも関心の高さがうかがわれます。昨年改訂された「病児保育感染症ガイドライン」は、アンケートでも多くの会員に認知されていることがうかがわれます。アンケートでは、感染症対策の管理基準はガイドラインをもとに、各施設で工夫されている様子がうかがわれますが、より安全な保育が実施されるためには、科学的な根拠にもとづいた管理基準の策定と、多施設による経験の共有が必要と考えられます。

2015年より当委員会で企画し、多施設に依頼して実施した「インフルエンザA型B型同室保育における施設内感染の検討」では、抗インフルエンザ薬投与下での同室保育では、施設内感染についてはA、B別室保育と同等であることを、大阪大会で報告いたしました。このようなエビデンスの蓄積は、安全で子どもを中心とした病児保育の実施には必要な

ことと考えられます。また、まれに経験する室内感染については、できるだけ多くの施設の経験を集積することが、重要と考えられます。そのためにも、ホームページ上で病児保育関連資料の中からダウンロードできる、「室内感染報告システム」のご活用をぜひお願いいたします。このように複数の施設での経験を共有し集積することは、協議会に参加する大きなメリットもあり、それにより根拠にもとづいた病児保育を実施することが出来ると思われます。会員の皆様のご協力をお願いいたします。

今年の香川大会でも感染症セミナーを開催いたします。今回も西岡会頭よりご配慮いただき、多くの方が参加できる会場で実施させていただきます。セミナーを通じて、皆様の感染症対策への理解がより深まるよう企画をさせていただきます。多くの方の参加をお待ちしております。

調査研究・インシデント管理委員会

委員長 荒井 宏治

あらいこどもクリニック 病児保育「きりん」



調査研究・インシデント管理委員会は、病児保育協議会加盟施設の実態や実績の調査と各施設から報告されたインシデント・アクシデントの集積と分析を活動としています。毎年実施している実績調査は、主に個々の施設の利用状況から病児保育の社会的ニーズを調査しています。実態調査は各施設の運営状況や抱えている問題点を数年おきに調べており、昨年実施されました。現在、皆様からいただいたデータを委員会内で詳細に解析しております。皆様のご協力、ありがとうございました。これらは病児保育事業が利用者や運営者にとって、より改善されるように協議会が行政に働きかけをするための重要な資料になります。

インシデント管理については、病児病後児保育におけるインシデントをできるだけ多く把握することを目的に、全加盟施設にmims（病児保育施設向けインシデント管理システム）あるいは手書きのチェックリストで報告していただくことをお願いしています。そしてこれらのデータを統合し、集計、分析して研究大会等で報告します。それによって多くのインシデントが施設間で共有され、個々の施設のセーフティマネジメントの向上に還元されることを期待しています。今後とも皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。



機関誌編集委員会

『年頭に際しての抱負』

委員長 羽根 靖之

医療法人 童心会 よいこ病児保育室



新年明けましておめでとうございます。

一昨年の7月から機関誌編集委員会の委員長を担当し、委員の皆様のご協力を得て昨年は委員長になって初めての機関誌8号を無事発行できました。現在は今年発行予定の9号の発行に向けて編集作業に取り組んでいるところですが、幸い総説や報告以外にも一般投稿論文も多く、有り難く思っている次第です。

少し気が早いですが、来年には記念すべき機関誌10号の発行となりますので、記念誌特集号としての内容充実を考えてみたいと思っております。そのために、今年は委員会でいろいろと企画立案して、委員の皆様のご協力を得て記念になるような機関誌10号の発行に向けて活動を活発にしたいと思っている次第です。

昨年迄は、まだ新米編集長ということで、どうし

ても無事機関誌が発行できれば良いと思う気持ちだけで、とても内容に関してまで語る余裕はありませんでした。しかし、今後は機関誌は協議会の顔でもあるという自覚を持って、内容も含めて進化した機関誌を目指したい所存です。

また、投稿規定や編集過程における工程などにおいても整理されたルール作り等に取り組んでいきたい所存です。それによって、多くの皆様が投稿しやすい機関誌を目指したいと思います。さらには、病児保育のことを知りたければ「病児保育研究」を読めば良いと思われるような充実した機関誌作りを目標に、また、多くの病児保育従事者や関係者の方に愛読されるような機関誌作りを目指していきたい所存です。

どうぞ、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

病児保育専門士認定委員会

2014年に、協議会が「安心安全な病児保育」のために開始した病児保育専門士認定も、4年目を迎え、全国で300名の病児保育専門士が、全国各地で活躍しておられます。

国は、子育て支援政策の中でも、「病児保育」を重要項目に挙げ、また、先の衆議院選挙でも「病児保育の充実」を公約に上げた政治家の方も多くおられました。その様に注目を集める中で、実施施設も2,000施設を超え、また実施形態の多様化が見られるようになり、私たちが始めた15年前は、医院併設型が主流でしたが、現在は保育園や株式会社など様々な形態で病児保育事業に取り組む姿が多くみられるようになりました。

その現状下で、当協議会が掲げる「健康であっても病気のときであっても、子どものトータル・ケアが保障されること」を最優先として、子どもたちに質の良い病児保育を!の思いで、専門士資格認定講習会を開催しています。

資格認定委員会では、常に、講習の見直しを行い、

委員長 永野 和子

みるく病児保育センター



受講生にとって何が良い病児保育につながるのかを検討し続けています。

本年からその一環として、受講者のアンケート結果を基に、講習会も研修委員会と検討を重ねながら、実習・実技を中心に移行していく準備が始まります。また、今年の、香川大会では例年通り「病児保育専門士のスペシャルインタレスセッション」を開催いたしますが、当協議会の中で、病児保育専門士の、スキルアップ研修企画として認定され、参加された病児保育専門士の方には、資格更新ポイントが加算されることになりました。

今後も、質の高い講習会を開催し、全国各地で安心安全な病児保育が展開されるよう、委員一同、努力してまいります。

※平成30年度の病児保育専門士講習会に関しては、5月ごろ別途お知らせいたします。開催地は、大阪の予定です。



研修委員会

昨年は、自治体が主催する「病児病後児保育研修事業」を、協議会としては初めて新潟県から受託し、研修委員会が概要を担当させて頂きました。これを機会に、研修委員会としては、全国的に研修事業の委託が始まっていることに鑑み、新年の活動の中心のひとつとして、各自治体からの研修事業を受託し、病児保育協議会の発展に尽力をしていきたいと考えています。そのためにも、各自治体と県支部長との連絡を密にして頂き、情報を共有しながら、協議会としての専門性の高い研修を全国的に広めていく方向で活動を展開していきたいと願っています。

また、平成30年度には、研修委員会が中心となっている基礎研修テキストの改訂を行います。現在使

委員長 帆足 曜子

ほあしこどもクリニック



用している基礎研修テキストは、病児保育専門士の資格ができる前に作成されたものです。その後、専門士のシステムができ、研修委員会が担当する基礎研修とステップアップ研修、資格認定委員会が担当する病児保育専門士研修となり、協議会としての研修のあり方を再構築していくことが、昨年の課題の一つでした。今年は協議会としての研修システムを構築していくこととともに、高松における全国研究大会までに、基礎研修テキストの改訂を行う予定でいます。のために、今年のかがわ大会での基礎研修は、新しいテキストに沿って、「基礎保育」「基礎看護」「基礎保育看護」「基礎小児医学」を担当した各研修委



員が講師となります。是非新しいテキストの理解を深めるためにも多くの社員の方々にご参加頂きたいと願っています。

平成30年度には保育所保育指針が改訂されます。改訂ではキャリアパスについても明確にされ、キャ

リアパスとしての研修が開始される予定になっており、全国的に研修のあり方が再評価される年となります。研修委員会でも保育所保育指針の改訂をも見据え、社員の方々の更なる専門性の向上に資する研修のあり方等、役割を追求していく所存です。



倫理委員会

委員長 木野 稔

中野こども病院 アリス病児保育室



これまで何度もアナウンスしていますが、当協議会では、一般社団法人化にともない倫理委員会が設置されています。医療に限らず保育分野でも、研究発表や調査に倫理的配慮がなされているかが重要になってきています。倫理的配慮という場合には、「ヘルシンキ宣言つまり人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」が守られているかということになります。厚労省および文科省から出されている、指針の目的及び基本方針を下記に示します。

この指針は、人を対象とする医学系研究に携わる全ての関係者が遵守すべき事項を定めることにより、人間の尊厳及び人権が守られ、研究の適正な推進が図られるようすることを目的とする。全ての関係者は、次に掲げる事項を基本方針としてこの指針を遵守し、研究を進めなければならない。

- ①社会的及び学術的な意義を有する研究の実施
- ②研究分野の特性に応じた科学的合理性の確保

- ③研究対象者への負担並びに予測されるリスク及び利益の総合的評価
- ④独立かつ公正な立場に立った倫理審査委員会による審査
- ⑤事前の十分な説明及び研究対象者の自由意思による同意
- ⑥社会的に弱い立場にある者への特別な配慮
- ⑦個人情報等の保護
- ⑧研究の質及び透明性の確保

詳しくは、インターネットから調べることができますのでご参照ください。大川会長が提唱されている病児保育にエビデンスをという研究を行う場合にはもちろん、研究大会や研修会で事例発表する場合でも、個人情報の取り扱いや研究の信頼性確保などに留意する必要があります。計画段階から倫理審査委員会の意見を聞いてみませんか。倫理審査申請を受付けますので、ご周知のほどよろしくお願いします。



広報委員会

委員長 藤本 保

大分こども病院 キッズケアルーム



昨年の新年号では、会員の皆様によりタイムリーに情報を伝えする新しい方法を協議会が模索しているとお伝えしました。

予告どおり、年5回の協議会ニュースと機関誌『病児保育』の間を埋めるように、可能な限り迅速に広

く情報を伝えする方法として協議会は「メールマガジン」を選び、そして7月、総会での承認を得て広報委員会はその第1号を発信しました。すでに施設会員、個人会員だけでなく、病児保育に興味をお持ちの会

員外の方々もたくさん登録しています。現在は全国各ブロックの研修会の開催案内や病児保育関連の公報が主な内容ですが、今後はもっと活用の幅を広げたいと考えています。

また、協議会サイトには『協議会ニュース』のバックナンバーを自由に閲覧できるように、PDFファイルの形でアーカイブしてきましたが、これを89号からは「電子書籍」タイプに変更しました。まるで本のページをめくるように手軽に読むことができま

す。ぜひ今後もご利用いただきたいと思います。

毎度申しますが、開設形態もさまざまな施設の皆様をつなぎ、協議会に興味をお持ちのあらゆる人たちに協議会情報を発信するのが広報委員会の務めです。どのような情報が求められているのか、発信した情報にどのような反応があったのか、皆様からのご要望やご意見が広報活動の大きな糧となり、協議会発展の力となります。皆様の声をぜひお寄せください。今年もよろしくお願い申し上げます。



あり方委員会

委員長 稲見 誠

いなみ小児科 病児保育室ハグルーム



全国病児保育協議会には、医療機関併設・保育園併設以外の多様な実施主体の施設の加盟が増えています。更に全国的にも種々の非加盟施設も増加しており、全国で様々な形態で本事業がなされています。このような現状下、本委員会は病児保育が倫理的・保育学的・医学的・経済的に適正に運営されるべき「あり方」について研究を行います。それに

付随して、必要に応じて国や自治体の情報収集・折衝・要請などを行います。

また病児保育施設は地域の子育て支援の中核的な施設になるべく、病児保育以外の子育て支援にどのように関わっていくか、調査研究を行いたいと思います。



保育園型プロジェクト

～病後児をみていくという事は～

リーダー 本田 直子

ゆうゆうくじら保育園 病後児保育室「くじらのおうち」



毎日保育園に通う子ども達は元気に遊んでいる事が当たり前ですね。具合が悪くなり病気の子どもたちは病児保育を利用し、病後児保育を利用します、園庭の元気なお友達の姿を見ながら元気な声を聞き一日を過ごし、明日はお友達に会える、という安心感と期待感。子どもにとっては大切な一日となります。そんな子ども達の気持ちに寄り添う看護師・保育士のまなざしの中に、園長や保育園の職員全員の協力的な体制はなくてはならない環境があります。感染症・保健衛生・アレルギー等、研修を重ねながら、病児・病後児保育の

知識の向上に努め一丸となって安心安全な保育を目指しております。

香川大会では、「病気の子どもの育ちの支援と親の就労支援」という視点から“病後児を見ていくということは”をテーマに学び合いたいと思います。

戌年は、非常に忍耐強く、頑固、誠実、忠実心、から「忠犬ハチ公」を想像します。信念を貫き目的が達成できるまで努力することに専念し、病児・病後児保育の発展に力を尽くしてまいりたいと思います。

「第28回全国病児保育研究大会inかがわ」のホームページを開設しました！

随時、更新をしていきますので、ぜひご確認ください。

詳細は [全国病児保育協議会](#)



調査研究・インシデント管理委員会からのお知らせ

平成28年度 全国病児保育協議会加盟施設の実績調査にご協力ください!!

実績調査は省庁などへ病児保育の実態を説明するにあたり、とても重要な資料になります。 **実績調査の締め切りは平成30年1月末です。**ぜひ、ご協力のほど、よろしくお願ひ申し上げます。



詳細は全国病児保育協議会ホームページ

[全国病児保育協議会](#)

<http://www.byoujihoku.net/>
をご覧ください。



編集後記

新しい年の始めに各委員会の抱負を載せました。ニュースは、発信するだけではなく交流の場であると思っています。皆さんからの自主的なご投稿も随时お待ちしています。

(広報委員長 藤本 保)



協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当: 藤 本 保

〒870-0943 大分市大字片島83-7
大分こども病院

FAX.097-568-2970

E-mail:byouji@oita-kodomo.jp